

## 別表1

## 段階確認一覧表

一般：一般監督

重点：重点監督

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
指定仮設工		設置完了時	使用材料、幅、高さ、長さ、深さ等	1回/1工事
土工(掘削工)		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化
道路土工 (路床盛土工) 舗装工 (下層路盤工)		ブルーフローリング実施時	ブルーフローリング実施状況	1回/1工事
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高さ、幅、延長、施工厚さ	一般：1回/1工事 重点：1回/2,000㎡
	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換え厚さ	一般：1回/1工事 重点：1回/1,000㎡
	サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	一般：1回/1工事 重点：1回/1,000㎡
パーチカルドレーン工	サトドレーン 袋詰式サトドレーン ペーパードレーン	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：1回/200本 重点：1回/100本
		施工完了時	施工位置、杭径	一般：1回/200本 重点：1回/100本
締固め改良工	サンドコンパクション パイル	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：1回/100本 重点：1回/50本
		施工完了時	基準高さ、施工位置、杭径	一般：1回/100本 重点：1回/50本
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工時	使用材料、深度	一般：1回/100本 重点：1回/50本
		施工完了時	基準高、位置、間隔、杭径	一般：1回/100本 重点：1回/50本
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般：1回/40本 重点：1回/20本
矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般：1回/150枚 重点：1回/100枚
		打込完了時	基準高さ、変位	
	鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般：1回/50枚 重点：1回/25枚
		打込完了時	基準高さ、変位	
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	
		打込完了時(打込杭)	基準高さ、偏心量	試験杭+ 一般：1回/50本 重点：1回/25本
		掘削完了時(中堀杭)	掘削長さ、杭の先端土質	
		施工完了時(中堀杭)	基準高さ、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/50本 重点：1回/25本
場所打杭工	リバース杭 オルケシク杭 アースドリル杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	試験杭+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：20%程度/1構造物 重点：50%程度/1構造物
		施工完了時	基準高さ、偏心量、杭径	試験杭+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/10本 重点：1回/5本

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		掘削完了時	長さ、支持地盤	一般：1回/3本 重点：全数
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対 比	1回/1本
		施工完了時	基準高さ、偏心量、径	一般：1回/3本 重点：全数
		グラウト注入時	使用材料、使用量	一般：1回/3本 重点：全数
オープンケトン基礎工 ニューマチックケトン基礎工		鉄杵据付け完了時	使用材料、施工位置	1回/1 構造物
		本体設置前(オープンケトン)	支持層	
		掘削完了時(ニューマチックケトン)		
		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対 比、スペーサの個数	1回/1 ロット
鋼管矢板基礎工		打込時	使用材料、長さ、溶接部の 適否、支持力	試験杭+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本
		打込完了時	基準高さ、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/10本 重点：1回/5本
置換工 (重要構造物)		掘削完了時	使用材料、幅、延長 置換厚さ、支持地盤	1回/1 構造物
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1 法線
砂防ダム		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1 法線
護岸工	法覆工(覆土施工が ある場合)	覆土前	設計図書との対比(不可視 部分の出来形)	1回/1 工事
	基礎工、根固工	設置完了時	設計図書との対比(不可視 部分の出来形)	1回/1 工事
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) RC 躯体工(橋脚) 橋脚アーチング工 RC 擁壁工 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		床堀・掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回/1 構造物
		鉄筋組立て完了時	使用材料 設計図書との対比 スペーサの個数	一般：20%程度/1 構造物 重点：50%程度/1 構造物
		埋戻し前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回/1 構造物
躯体工 RC 躯体工		杵座の位置決定時	杵座の位置	1回/1 構造物
床版工		鉄筋組立て完了時	使用材料 設計図書との対比 スペーサの個数	一般：20%程度/1 構造物 重点：50%程度/1 構造物
鋼橋 鋼製橋脚製作工		仮組立て完了時(仮組立て が省略となる場合を除く)	キャンバー、寸法等	1回/1 構造物

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
ポストテンションT(I)桁製作工 プレキャスト桁製作工 プレキャストブロック組立工 PCホースラフ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレス導入完了時 横 締め作業完了時	設計図書との対比	一般:5%程度/総ケーブル数 重点:10%程度/総ケーブル数
		プレストレス導入完了時 縦 締め作業完了時	設計図書との対比	一般:10%程度/総ケーブル数 重点:20%程度/総ケーブル数
		PC鋼線・鉄筋組立て完了時 (工場製作を除く)	使用材料 設計図書との対 比	一般:20%程度/1 構造物 重点:50%程度/1 構造物
地覆工 橋梁用高欄工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比 スペースの 個数	一般:20%程度/1 構造物 重点:50%程度/1 構造物
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
トンネル支保工		支保工完了時(支保工変化 毎)	吹き付けコンクリート厚 ロックボルト打込み本数及び長さ	1回/支保工変化毎
トンネル覆工		コンクリート打設前	巻立空間	一般:1回/構造の変化毎 重点:3打設毎又は1回/構 造の変化毎の頻度の多い方 ※重点監督:地山等級がD,E のもの 一般監督:重点監督以外
		コンクリート打設後	出来形寸法	1回/200m以上臨場により 確認
トンネルインバート工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比 スペースの 個数	1回/構造の変化毎
ダム工	各工事ごと別途定める		各工事ごと別途定める	
鋼板巻立て工	アチング定着アンカー穿孔 工	アチング定着アンカー穿孔完了時	施工状況の適否、設計図書 との対比、深さ	一般:全数 重点:全数
	鋼板取付工、固定アン カー工	鋼板建込み固定アンカー完 了時	建込み状況、設計図書との 対比、使用材料	1回/1 橋脚
	現場溶接工	溶接前	施工状況の適否、設計図書 との対比、溶接部の適否	一般:1回/1 工事 重点:1回/500㎡
		溶接完了時	施工状況の適否、塗膜厚、 使用材料及び使用量	一般:1回/1 工事 重点:1回/500㎡
現場塗装工	塗装完了時	施工状況の適否、塗膜厚、 使用材料及び使用量	一般:1回/1 工事 重点:1回/500㎡	
舗装工	路盤、基層、表層	各層毎の完了時	基準高さ、幅、厚さ 支持 力	一般:1回/1 工事 重点:1回/3000㎡
塗装工	現場塗装	ケレン完了後、各層 各塗り 後	施工状況の適否、塗膜厚、 使用材料及び使用量	一般:1回/1 工事 重点:1回/500㎡
旧施設撤去		完了時	撤去状況の適否	一般:1回/1 工事 重点:1回/1 施設
路面切削工		完了時	施工状況の適否、幅、厚 さ	一般:1回/1 工事 重点:1回/3000㎡
コンクリート吹付け工 厚層基材吹付け工		法面清掃完了時	施工状況の適否	1回/1 面
		ラス張完了時	ラスの位置、アンカー鉄筋検測 ピンの径、長さ、本数	1回/1 面
開削工(下水道)		完了時	施工状況の適否	一般:1スパン(人孔間)ごと 重点:一般に同じ
推進工(下水道)		完了時	施工状況の適否	一般:1スパン(人孔間)ごと 重点:一般に同じ
シールド工(下水道)		セグメント組立て完了時	施工状況の適否	一般:1スパン(人孔間)ごと 重点:一般に同じ
		2次覆工完了時	施工状況の適否	一般:100m ごと 重点:50m ごと
立坑工(下水道)		完了時	支持地盤、寸法、 施工状 況の適否	一般:1回/1 箇所 重点:一般に同じ
人孔築造工 (下水道)		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比、使用材 料、スペースの個数	一般:20%程度/1 構造物 重点:50%程度/1 構造物
		築造完了時	施工状況の適否	一般:1回/1 構造物 重点:一般に同じ
落石防護工		施工完了時	使用材料 設計図書との対比	1回/1 工事

注)・表中の「確認の程度」は確認頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上設定することとし、重点監督は1回/週以上の頻度で実施すること。

なお、ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位(目地)毎とする。

・一般監督:重点監督以外の工事(工事標準仕様書第1編1-1-22第7項の規定によることのできる)

・重点監督:低入札工事

:主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事。

## 別表2

### 施工状況把握一覧表

一般：一般監督  
重点：重点監督

種別	細別	施工時期	把握項目	把握の程度
オープンケトン基礎工 ニューマチックケトン基礎工 深礎工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設 順序、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
場所打杭工	リバース杭 オールソ ンク杭 アースドリル杭 大 口径杭	コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設 順序、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) RC 躯体工(橋脚) 橋脚アチング工 RC 擁壁工 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設 順序、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
床版工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設 順序、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
ボーステンションT(I)桁製作工 プレキャストコンクリート プレキャストブロック桁組立工 PCホースラフ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		コンクリート打設時 (工場製作を除く)	品質規格、運搬時間 打設 順序、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
トンネル工		施工時(支保工変化 毎)	施工状況の適否	1回/支保工変化毎
土工(盛土工)		敷き均し・転圧時	使用材料 敷均し・締固め状況	一般：1回/1工事 重点：2～3回/1工事
舗装工	路盤、表層 基層	舗設時	使用材料 敷均し・締固め状況 天 候、気温、舗設温度	一般：1回/1工事 重点：1回/3000㎡
コンクリート吹付け工		吹付け時	施工状況の適否 品質規格、天候、気温	1回/1面
塗装工	現場塗装	清掃・錆落とし施工時	清掃・錆落とし状況	1回/1工事
		塗装施工時	使用材料、天候、気温	1回/1工事
樹木・芝生管理工 植生工	施肥、薬剤散布	施工時	使用材料、天候、気温	1回/1工事
ダム工	各工事ごと別途定める		各工事ごと別途定める	
開削工(下水道)		施工時	施工状況の適否	一般：1回/1スパン 重点：1回/50m 又は1スバ ン
推進工(下水道)		施工時	施工状況、推進力	一般：1回/100m ごと 又は1スパン2回 重点：1回/50m ごと 又は1スパン3回
		裏込注入時	施工状況、薬剤使用量	一般：1回/スパン 重点：2回/スパン
シールド工(下水道)	1次覆工 2次覆工	裏込注入時	施工状況、薬剤使用量	一般：100リンク 重点：50リンク
		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：100m ごと 重点：50m ごと
立坑工(下水道)		施工時	施工状況の適否	一般：1回/1箇所 重点：2回/1箇所
人孔築造工(下水道)		施工時	施工状況の適否	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット

注) ・表中の「把握の程度」は把握頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上設定することとし、重点監督は1回/週以上の頻度で実施すること。

なお、ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位(目地)毎とする。

・一般監督：重点監督以外の工事

・重点監督：低入札工事

：主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事。